

令和3年度高槻わかば幼稚園学校自己評価結果公表シート

1、本園の教育目標

夢のある楽しい活動や体育活動などを通して豊かな心を育て、脳や感覚、基礎的な運動能力の発達を図り、将来の学習に対応できる十分な力を養うことを本園の教育の目的とする。

2、本年度重点的に取り組む目標

「幼児期のおわりまでに育てほしい 10 の姿」を念頭に掘り下げていく。実際の保育に落とし込むことが難しい事柄であるが教員間で共通理解が図れるように実践を通した園内研修を行う。また「マナー研修」を通して対保護者は当然として職員間でも相手を思いやる態度を醸成する。コロナ禍の影響が長引く中で子どもたちの心身に及ぼす影響を注視し、健全な発育が図れるように遊びや行事を工夫する。

3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み
1) 教育課程の編成と共通理解	1) コロナ禍の中で思ったような教育課程を実践できなかった面は否定できないが、時流に流されない、幼稚園本来の幼稚園らしい保育を目指して共通理解を図った。 また、当園の見学の精神に鑑みよりバランスを重視した保育を行った。
2) 教職員個々の資質を高める取り組み	2) 外部講師を招いての研修。マナーに関する研修を行った。 外部に向けてだけではなく職員間で相手を思いやる行動を重視して研修を行った。
3) 子どもたちの情報の共有	3) コロナ禍の中で親子ともども孤立する状況が考えられるので、電話などでできるだけこまめに情報をとり、必要に応じて学年、全園で情報を共有した。
4) 子どもたちの自発性や知力を高める取り組み	4) クラスあるいはグループごとの話し合いを積極的に行い必要に応じて保育者が介入するようにした。とかく子ども任せになりがちであるがそうならないように注意して取り組んだ。 図鑑やインターネットなどのICT機器も積極的に導入した。

5) 保護者との連携	5) 個々の園児についてはこまめにやり取りをしてきたつもりであるが、コロナ禍の中で当園が行っているボランティアとしての園行事への参加は今年もできなかった。
6) 防犯対策	6) 防犯訓練は職員間で年に複数回行い防犯意識とともに実践的な対応も意識して行うことができた。 子どもたちにも積極的に話して意識を高めた。
7) 施設の安全対策	7) 園内の遊具の安全点検を複数回行った。
8) ICT 化の試み	8) 登降園や預かり保育等の園児管理に「brain」を導入し、指導要録も電算化して教員の負担軽減を図った。
9) 未就園児教室	9) 園外に所有する施設「ラビーハウス」において未就園児教室を行った。 園内の行事に左右されない未就園児にたいする取り組みができた。

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価

10 の姿についての共通理解を図るようにしたが未だ道半ばである。5 領域に立ち返る取り組みは一定できたかと思う。子どもに限らず教職員通しも肯定的に評価してチームワークを醸成するようにした。職員間でまとまりがみられていると思う。

5、今後取り組むべき課題

コロナ禍が長引き未だ経験したことがない事態と子どもたちの心身への影響への対応に苦慮しているところであるが、やはり幼稚園にきて対面で保育できることが大切であることを痛感している。

コロナ禍の子どもたちの心をケアを含めて注意深い保育を行いたい。

保護者向けには新たに第3駐車場作ったので、保護者の登降園についての利便性をより高めるで保護者の負担を軽減するようにつとめる。

6、財務状況について

公認会計士による監査の結果、適正に運営されていると認められる。

7、学校関係者評価

運営は適切であり、特に指摘すべき事項はなく妥当である。